

## 令和4年度 事業報告書

### 特定非営利活動法人アーツ・イニシアティヴ・トウキョウ

#### 1 事業の成果

##### (1) 特定非営利活動に係る事業

###### ①「アーティストの東京滞在宿舎の提供及び生活支援サービス」事業

コロナ禍による海外渡航制限が緩和されたことにより、来日が決定していながらも延期されたアーティスト2名を、約3年ぶりに招聘した。フィンランド文化財団との連携で招聘したアーティストは、自然のなかにある特別な記憶や目に見えないものへの関心をもち、東京近郊をはじめ広島や静岡などを訪れ、戦争や自然災害の歴史に紐づく樹木を調査し、撮影した。後日、活動の記録をAITのウェブサイトで発信する。また、スウェーデンのIASPISとの連携で招聘したアーティストは、都市や特別な場所において忘れ去られてきた活動の痕跡や人々の歴史、社会の周縁にいる人々の物語など、見過ごされてきたものに关心を寄せ、三宅島や成田空港周辺などで精力的にリサーチを行った。アーティストのリサーチを尊重してサポートしながらも、AITの活動や気候危機に関する問題意識などを共有した。

###### ②「海外におけるアーティストインレジデンス施設に関する情報収集、提供」事業

気候危機とアートに対するリサーチとアクションを考える、芸術関係者による任意団体「Gallery Climate Coalition(GCC)」(ロンドン)との情報交換を継続した。また、GCCより紹介されたマンチェスターのアーティスト兼環境リーダーにインタビューを行い、気候危機とアートに関する海外の動向とアクションなどの最前線の情報を収集した。先進的な海外の情報のリサーチや発信は今後も継続する。

EUNIC関西(ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川、ヴィラ九条山、アンスティチュ・フランセ関西、オランダ王国大使館)と京都芸術センターが主催する、アーティスト・イン・レジデンスの現在を議論するシンポジウム「ハイブリッド・シンポジウム AIR on air 2.0」の企画補助を行い、ロジャー・マクドナルドがモデレーターとして登壇した。「アート制作における気候変動の危機—ヨーロッパと日本の視点から考える」と題したトークでは、国内外のゲストスピーカーにより、気候危機とアーティストの思考について考える機会が提供された。

###### ③「国内アーティストの海外施設への入所支援」事業

14回目を迎えたバッカーズ・ファンデーション(BAR)とのレジデンスプログラムでは、本年度も海外派遣を見合わせ、国内を中心にアーティスト2名の制作活動を支援した。1名は、作品における素材やモチーフの追求を目的に、熊本・阿蘇の山々を上空からヘリコプターで観察した。もう1名は、北海道の美瑛から奄美大島まで広く訪れ、植物と土地固有の染色についてリサーチし作品制作やワークショップを行った。また、コロナ禍や出産に代表されるように、社会の様相と個人の生活変化に伴い、自宅にスタジオを併設したいというアーティストに対し、制作環境の整備を支援した。アーティストの変わりゆくニーズを的確に捉え、発展的な視座をもつ活動を支援することができた。

###### ④「現代美術の展覧会、ワークショップの実施及びその支援」事業

本年度も、自治体、企業との協働プログラムを中心に行った。

「Tokyo Contemporary Art Award(TCAA)」では北京より選考委員を1名招聘し、受賞アーティストによる展覧会開幕を記念した公開トークを東京都現代美術館にて実施した。震災や戦争とその場所の歴史、そこに生きる人々の痕跡など、アーティストそれぞれの制作とリサーチの過程が紹介され、選考委員と対話した。また、選考委員が日本に滞在している間に、昨年度の受賞アーティスト2名とのメンタリングを行い、彼らの制作と展覧会の構想について意見交換するなど、交流を深める機会となった。

15周年目を迎えた「ART IN THE OFFICE」では、過去のプログラムを振り返る映像やインタビューに協力した。また、運営協力として公募アーティストの選出と制作のサポートを行った。アーティストによる社員向けワークショップでは、動物の生態など偶然の出来事や、風、光といった空間と抽象絵画との関係性についてアーティストが紹介し、その後、参加者一人一人が好きな画材を使い、身体感覚や心、記憶の情景について表現をした。3つのグループ会社から過去最多となる参加があり、社員同士のコミュニケーションの促進や新たな発見に繋がったとの声があった。

「三菱商事アート・ゲート・プログラム」では、引き続きアドバイザーとして、学生への資金支援と交流機会の創出のほか、若手・中堅アーティストに学びの機会を提供し、制作活動の発展をサポートするプログラムを実施した。「ラーニング」と「メンタリング」では、オンラインのみならず、展覧会実施やスタジオ訪問など、リアルでも多様な形式で活動した。若手アーティストを対象とした「ブレイクスルー」では、集大成の一つとして6名の作家による展覧会を代官山のヒルサイドフォーラムで開催し、1,289名の観客を迎えた。プログラムをリニューアルしてから初の展覧会であったが、イベント参加者やアート関係者、主催側にも好評を得た。そのほか、芸術系の大学で学ぶ学生を対象とした「スカラシップ」では、交流会を2回実施。「アクティベーション」のアーティストによるトークのほか、「ブレイクスルー」の展覧会イベントへの参加等が行われた。そのほか、社内においてプログラムを浸透させるねらいとして、美術館訪問やオンラインプログラムを実施。

年度末には、1期目のプログラム終了を控えてレビュー項目を整理し、次期プログラムに向けた提案を行った。

「メルセデス・ベンツアート・スコープ」では、本年度より多摩美術大学と連携した。従来の日独アーティストが互いの国に滞在するアーティスト・イン・レジデンスに加え、アートを学ぶ大学院生に特別レクチャーやワークショップをすることにより、アーティスト自身の経験を若い層へ還元し、支援するプログラムへリニューアルした。また本プログラムの30年にわたる歴史を可視化するため、これまでの全活動をまとめた映像を制作し、youtubeやウェブ記事に掲載し発信した。また六本木アートナイトに合わせ、メルセデス・ベンツ日本の「EQハウス」にて、2018年の参加作家がインスタレーション作品を展示したほか、2003年の参加作家の所蔵作品を六本木のレストラン前に再展示し、美術館やギャラリーにまで足を運ばない人々にも作品を見せることができた。このように、今後も多摩美術大学との新プログラムと、これまで培ったアセットを生かし、広く一般の人に届けるプログラムとを両輪で展開していく。

新生銀行グループ(現:SBI新生銀行グループ)との教育プログラムでは、前年度から継続し社員向けのオンライン鑑賞ワークショップを複数回実施した。今回も芸術作品から気候危機や社会課題を考える目的で、より深く作品を観察し、想像力を鍛えるセッションとミニレクチャーを開講。参加者それぞれの視点を共有したほか、絵画の背景にある歴史や環境について気づく機会を創出した。また、AITのディアミーが実施した、障害などの特性を持つ子供や若者との芸術プログラムへの寄付協力により、特設サイトを通じたプログラムの広報発信ができた。

恵比寿映像祭の関連企画として実施された「恵比寿映像祭コミッショニング・プロジェクト」に、審査運営事務局として関わった。新たな試みとして、これまでの恵比寿映像祭や東京都写真美術館の展覧会に参加したアーティストの中から、気鋭の中堅アーティストを推薦で選び、選考委員との面談や作品プレゼンテーションを経て、4名をファイナリストに選出した。同映像祭期間中に行われた企画展を経て、最終的に2名に特別賞を授与した。

角川ドワンゴが運営するネットの高校「N高／S高」とのプログラムでは、武蔵野美術大学の学生3名をゲストに迎え、制作への想いや大学生活について紹介するオンライントークを高校生向けに行った。質疑応答も活発に行われ、大学生との交流を通じて美術大学へのイメージや制作の背景を知る良い機会となった。また、初の試みとして、アートに関心のある高校生2,000名に向けたニュースレターを刊行した。第一回記事では、AITがピックアップしたおすすめの展覧会やアーティスト、ニュースなどの最新情報ほか、テーマの「環境とアート」にまつわるさまざまな情報を共有。戦争など難しい状況にあるウクライナの若者の今など、それぞれの環境について考えるきっかけを提供した。

#### ⑤「現代美術に関する公開講座の実施」事業

教育プログラム「Total Arts Studies(TAS)」のオンデマンド・アート講座シリーズ「TASプレミア」では、継続して気候危機や社会課題、メンタルヘルスとアートをテーマに、芸術家の実践や芸術の考えを通して、ケアや適応、子供と教育について学びを深めるコースを配信した。TASプレミアに関連する内容として、書籍『DEEP LOOKING: 想像力を蘇らせる深い観察のガイド』との連携イベントを開催し、出版時期に合わせてゲストを招いたトークシリーズをオンラインにて3回開催。そのほか編集者との対談イベントをリアルで開催し、好評を得た。各トークは後日アーカイブを配信した。今後も市民のニーズに沿った学びの形を探っていく。

都内のギャラリーや主要美術館を複数のルートで結び、期間限定で巡回するアートバスの運行や関連イベントを行う「アートウィーク東京2022(AWT)では、4つのオンライントークを企画・制作した。一部はAWT開催前からウェブサイトで公開され、日英で制作されたトークコンテンツは、現在も視聴可能である。

子供や若者と芸術家をつなぐ「ディアミー」では、文化庁の助成と、株式会社資生堂等企業の寄付を受け、これまでの活動から派生した新プロジェクト「コレクティヴ・メイズメント・トゥループ [CAT]」を立ち上げた。ダウン症や自閉症の子供を中心とした絵の教室を行う市民グループ、および、多様な心をテーマに活動するオランダの美術館と協働し、障害のある人を含む子供と若者向けの美術鑑賞プログラム「インスピレーション・ツアーアート」を東京国立近代美術館で開催。またその経験から自身の表現に展開する創作の機会を作り出した。オランダと日本の精神医療やアート関係者との勉強会やトークを通じて活動を振り返り、多様な感じ方や表現を分かち合う機会となった。トークは日本語字幕の情報保障と日英逐次通訳を取り入れ、当日は定員を超える150名が参加。活動の記録はウェブサイトと映像で日英で配信し、国内外で活動を周知した。また、新たにバーバリー・ジャパンより、アートを通じた子供・若者支援の寄付申込があり、次年度以降も継続的に連携すべく話し合いを進めている。

#### ⑥「現代美術に関する機関誌発行、インターネット上のホームページ開設、情報提供」事業

「TASプレミア」特設サイトでは、継続してオンデマンドアート講座を配信。AITウェブサイトと連動させ、外部の動画配信サービスでレクチャーの抜粋映像を公開している。

AITのウェブサイトと、美術媒体「美術手帖ウェブ」に、気候危機とアートに関する海外のアーティストへのインタビュー、気候危機とアートにまつわる海外の主な活動を連載シリーズで公開中。特に、日本では入手しづらい海外のニュースや活動を日本語で紹介することで、気候危機とアートの世界の動向をわかりやすく一般に伝えている。

#### ⑦美術と医療福祉に関する調査研究、アーカイブ化推進、情報提供

アートとメンタルヘルス分野の取り組みの意義について、オランダのメンタルヘルスに携わる専門家の意見をヒアリングを行った。障害のある人々とのより良い協働においての知見や、ワークショップの実施環境や心構えについて事例を交えながらアドバイスをもらい、オランダと日本の継続的な協働の素地をつくることができた。参加者の特性によって丁寧な対応や柔軟な工夫が必要なため、アクセシビリティーの課題については今後も連携し、リサーチを継続していく。

## (2) その他の事業

### ②「飲食提供業、物品販売業」事業

AIT Pressを立ち上げ、『DEEP LOOKING: 想像力を蘇らせる深い観察のガイド』(著者: [REDACTED])を出版し、オンラインショップや書店、またイベント時に販売した。  
「ディアミー」の一環で製作したアーティストグッズを、オンラインショップにて販売した。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【67,603】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
①アーティストの東京滞在宿舎の提供及び生活支援サービス	[REDACTED](フィンランド)、[REDACTED](デンマーク)招聘	2022年5月～2023年4月	大田区	2名	海外在住アーティスト	40名	2,983
②海外におけるアーティストインレジデンス施設に関する情報収集、提供	気候危機とアートの研究団体GCCのリサーチ、協働への情報収集 「ハイブリッド・シンポジウム AIR on air 2.0」企画補助(主催:EUNIC関西、京都芸術センター)	2022年5月～2023年4月	オンライン	4名	国内アーティスト他一般	広く一般	0
③国内アーティストの海外施設への入所支援	バッカーズファンデーション([REDACTED])	2022年5月～2023年4月	主にオンライン	2名	国内アーティスト	2名	1,032
④現代美術の展覧会、ワークショップの実施及びその支援	「アート・イン・ザ・オフィス」運営協力(主催:マネックスグループ株式会社) 受賞作家: [REDACTED] - 選考会実施 - 受賞者の滞在制作サポート - ワークショップ企画実施 - レセプションイベント協力  東京コンテンポラリーアートアワード選考会運営事務局 (主催: 東京都、トーキョーアーツアンドスペース) - 海外選考委員招聘、メンタリング2回 - 受賞記念アーティスト・トーク企画 - [REDACTED]  メリセデス・ベンツ アート・スコープ - 活動をまとめた映像制作 - 「EQハウスx久門剛史」展開催 - レセプションにて多摩美術大学との提携発表 - 所蔵作品の再展示([REDACTED]) - 2023年派遣アーティスト選出([REDACTED])  新生銀行グループ(23年1月SBI新生銀行へ名称変更)	2022年5月～2023年4月  2022年11月～2023年4月  2022年9月～2023年3月	マネックスグループ(株)(港区)、オンライン 東京都現代美術館(江東区) 港区 東京国立近	3名  4名  2名		90名  250名  展覧会: 61名 レセプション: 100名	26,269  100名

	<p>- 社員ワークショップ2回 - 障害のある子供、若者向け鑑賞WSの広報サポート</p> <p>恵比寿映像祭 コミッショニ・プロジェクト選考協力 - 選考会運営業務</p> <p>三菱商事アート・ゲート・プログラム - 全体プログラム企画及び運営業務 - ウェブサイト制作 - メンタリング、レクチャー、トークイベント、ワークショップ企画 - 展覧会の実施</p> <p>三井不動産 新築マンション - アート選定 - コミッショニ作品調整</p> <p>アートウイーク東京2022 トークイベント企画、コンテンツ制作 (1)『東京はどこにある?—日本の1960年代美術を「オペレーション」という概念から考える』([美術史家、インディペンデント・スカラー、ポンジャ現懇主宰]) (2)『表現と「わたし」の身体—dumb type《S/N》のパフォーマー、THE OK GIRLSとフ・ド・ラ・マドレーヌが語る( THE OK GIRLS ■■■■■ SNATCH, ■■■■■ / MAMIMUMU, ■■■■■、フ・ド・ラ・マドレーヌ   聞き手: ■■■■■ )』 (3)『必要なものは自分たちでつくる—1970年代後半以降にみる現代アートとデザインのグラス・ルーツ』([クリエイティヴ・ディレクター、佐賀町アーカイブ主宰]   聞き手: ■■■■■ [AWTアートディレクター、グラフィックデザイナー]) (4)『わたしたちはどこにいる?—日本における地域アートを再訪する』(■■■■■ [AITプログラムディレクター] × ■■■■■ [アートライター、エディター、翻訳家])</p>	2022年10月 -2023年3月  2022年5月-2023年4月  2022年5月-2023年4月  2022年5月-2023年4月  2022年8月-11月	代美術館(千代田区)・オンライン オンライン、東京都写真美術館(目黒区) 品川区、渋谷区 オンライン 文京区 オンライン	3名 2名 5名 2名 2名		候補作家:8名 選考委員:5名 展示入場者:31,883人  支援作家:29名 展覧会入場者:1289名	
⑤現代美術に関する公開講座の実施	<p>現代美術の教育プログラムTotal Art Studies(TAS)プレミア - 講座の企画、配信 - トークイベント企画</p> <p>子供と芸術家を繋ぐ 「ディア ミー」による「CAT」 - フシリテーター研修 2回 - 美術鑑賞ワークショップ1回 - 創作ワークショップ1回 - 勉強会、公開トーク 各1回 (協働:アトリエ・エー、ミュージアム・オブ・マインド)</p> <p>書籍『DEEP LOOKING』出版記念トーク 4回、アーカイブ映像制作</p>	2022年4月 -2023年5月  2022年4月 -2023年5月  2022年6月	オンライン オンライン、東京国立近代美術館(千代田区) オンライン、AITルーム(渋谷区)	6名 4名 3名	広く一般 障害児支援の市民グループほか 広く一般	100名 250名 150名	37,318

		-2022年10月						
⑥現代美術に関する機関誌発行 インターネット上で のHPリニューアル、情報提供	イベントや人材募集等の情報を配信(5回/年)  ウェブサイト更新 - 記事、映像発信	2022年5月 -2023年4月	オンライン	7名	広く一般	7000名	0	
⑦美術と医療福祉に関する調査研究、アーカイブ化推進、情報提供	メンタルヘルスとアートのリサーチ、ヒアリング	2022年5月 -2023年4月	オンライン	2名	-	-	0	
⑧現代美術関連のイベントにおけるボランティア活動の情報提供、支援	実施なし	-	-	-	-	-	-	

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 1,652 】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)
①一部宿舎、スペースの賃貸業務	実施なし	-	-	-	-
②飲食提供業、物 品販売業	『DEEP LOOKING: 想像力を蘇らせる深い観察のガイド』出版・販売 ディアミーグッズ販売	2022年5月 -2023年4月	オンライン、 書店、AIT ルーム(渋谷 区、長野県 他)	4名	1,652
③美術品の売買	実施なし	-	-	-	-

## 事業報告用

## 令和4年度 活動計算書（その他事業がある場合）

特定非営利活動法人アーツ・イニシアティヴ・トウキョウ

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
<b>(A) 経常収益</b>					
1 受取会員費 賛助会員受取会費	40,000		0	0	40,000
2 受取寄附金 受取寄附金	2,525,750		0	0	2,525,750
3 受取助成金等 受取助成金	3,591,000		0	0	3,591,000
4 事業収益 事業収益	66,944,179		2,168,847		69,113,026
5 その他の収益 受取利息 雑収入 為替差益	73 496 65,542	66,111 28 2,593	2 28 2,623		68,734
<b>経常収益計</b>		<b>73,167,040</b>		<b>2,171,470</b>	<b>75,338,510</b>
<b>(B) 経常費用</b>					
<b>1 事業費</b>					
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 賞与 法定福利費 福利厚生費	5,547,413 18,822,241 3,520,548 3,067,464 102,262	31,059,928	164,587 555,326 104,452 91,009 2,694	918,068	31,977,996
(2) その他経費 売上原価 外注費 荷造運賃 広告宣伝費 交際費 旅費交通費 通信費 消耗品費 水道光熱費 保険料 修繕費 新聞図書費 地代家賃 支払手数料 諸会費 会議費 租税公課 リース料 支払利息 為替差損	45,143 26,095,265 220,885 125,135 69,661 2,125,989 183,159 2,954,863 157,385 67,043 30,000 11,379 3,359,479 265,976 2,500 309,716 331,188 108,268 855 79,295	36,543,184	0 99,885 972 0 0 11,388 248,187 6,209 4,670 0 0 79,528 279,947 0 0 0 200 3,212 25 0	734,223	37,277,407
<b>事業費計</b>		<b>67,603,112</b>		<b>1,652,291</b>	<b>69,255,403</b>
<b>2 管理費</b>					
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費			0	0	0
(2) その他経費 消耗品費 水道光熱費 通信運搬費 地代家賃 旅費交通費 減価償却費			0	0	0
<b>管理費計</b>			0	0	0
<b>経常費用計</b>		<b>67,603,112</b>		<b>1,652,291</b>	<b>69,255,403</b>
<b>当期 経常増減額 [A] - [B] ...①</b>		<b>5,563,928</b>		<b>519,179</b>	<b>6,083,107</b>
<b>(C) 経常外収益</b>					
固定資産売却益 過年度損益修正益					
<b>経常外収益計</b>			0	0	0
<b>(D) 経常外費用</b>					
固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損					
<b>経常外費用計</b>			0	0	0
<b>当期 経常外増減額 [C] - [D] ...②</b>			0	0	0
<b>経理区分振替額 ...③</b>					
税引前 当期 正味財産 増減額 ①+②+③...④		5,563,928		519,179	6,083,107
法人税、住民税及び事業税 ...⑤					913,609
前期繰越正味財産額 ...⑥					10,346,253
<b>次期 繰越正味財産額 ④-⑤+⑥</b>					<b>15,515,751</b>

## 事業報告用

## 令和4年度 貸借対照表

特定非営利活動法人アーツ・インシアティヴ・トウキョウ

(単位：円)

科	目	金額	小計・合計
<b>【A】資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金預金		27,842,064	
売掛金		1,863,283	
商品		689,661	
前払費用		639,937	
<b>流動資産合計</b> . . . ①			<b>31,034,945</b>
<b>2 固定資産</b>			
(1) 有形固定資産			
工具器具備品		393,645	
減価償却累計額		-393,644	
(2) 無形固定資産			
(3) 投資その他の資産			
敷金		460,000	
<b>固定資産合計</b> . . . ②			<b>460,001</b>
<b>【A】資産合計 ①+②</b>			<b>31,494,946</b>
<b>【B-1】負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
未払金		7,167,435	
未払法人税等		913,600	
未払消費税等		1,829,000	
前受金		5,014,852	
預り金		1,054,308	
<b>流動負債合計</b> . . . ③			<b>15,979,195</b>
<b>2 固定負債</b>			
<b>固定負債合計</b> . . . ④			<b>0</b>
<b>負債合計 ③+④</b>			<b>15,979,195</b>
<b>【B-2】正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産額		10,346,253	
当期正味財産増減額		5,169,498	
<b>正味財産合計</b>			<b>15,515,751</b>
<b>【B】負債及び正味財産合計 【B-1】+【B-2】</b>			<b>31,494,946</b>

## 令和4年度 計算書類の注記

## 事業報告用

## 特定非営利活動法人アーツ・インシアティヴ・トキヨウ

## 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法  
什器備品の減価償却は定率法

(3) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税抜方式により処理しております。

## 2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科目	アーティストの東京滞在支援活動事業	国内アーティストの海外施設への入所事業	現代美術の展覧会ワーキングショップの実施事業	現代美術の公開講座事業	飲食提供、物品販売事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費	0	0	0	40,000	0	40,000		40,000
2. 受取寄附金	0	0	0	2,525,750	0	2,525,750		2,525,750
3. 受取助成金	0	0	0	3,591,000	0	3,591,000		3,591,000
4. 事業収益	1,989,106	2,000,000	28,875,592	34,079,481	2,168,847	69,113,026		69,113,026
5. その他の収益	-23	2,432	22,911	40,791	2,623	68,734		68,734
経常収益計	1,989,083	2,002,432	28,898,503	40,277,022	2,171,470	75,338,510	0	75,338,510
II 経常費用								
(1) 人件費								
役員報酬	150,947	151,774	2,191,283	3,053,409	164,587	5,712,000		5,712,000
給料手当	509,304	512,093	7,498,496	10,302,348	555,326	19,377,567		19,377,567
賞与	95,796	96,320	1,390,651	1,937,781	104,452	3,625,000		3,625,000
法定福利費	83,467	83,924	1,211,679	1,688,394	91,009	3,158,473		3,158,473
福利厚生費	11,381	2,485	35,869	52,527	2,694	104,956		104,956
人件費計	850,895	846,596	12,327,978	17,034,459	918,068	31,977,996	0	31,977,996
(2) その他経費								
売上原価	0	0	0	45,143	0	45,143		45,143
外注費	1,234,479	64,099	10,354,988	14,441,699	99,885	26,195,150		26,195,150
荷造運賃	107	108	52,541	168,129	972	221,857		221,857
広告宣伝費	0	0	19,876	105,259	0	125,135		125,135
交際費	7,437	0	41,701	20,523	0	69,661		69,661
旅費交通費	31,687	15,230	686,068	1,393,004	11,388	2,137,377		2,137,377
通信費	30,003	2,571	59,171	91,414	248,187	431,346		431,346
消耗品費	58,069	16,862	1,246,542	1,633,390	6,209	2,961,072		2,961,072
水道光熱費	4,283	4,306	62,169	86,627	4,670	162,055		162,055
保険料	0	0	63,099	3,944	0	67,043		67,043
修繕費	0	0	0	30,000	0	30,000		30,000
新聞図書費	0	0	6,316	5,063	0	11,379		11,379
地代家賃	751,944	73,336	1,058,813	1,475,386	79,528	3,439,007		3,439,007
支払手数料	10,224	6,258	91,237	158,257	279,947	545,923		545,923
諸会費	0	0	2,500	0	0	2,500		2,500
会議費	1,467	0	110,804	197,445	0	309,716		309,716
租税公課	0	0	42,200	288,988	200	331,388		331,388
リース料	2,946	2,962	42,767	59,593	3,212	111,480		111,480
支払利息	23	23	338	471	25	880		880
為替差損	82	0	0	79,213	0	79,295		79,295
その他経費計	2,132,751	185,755	13,941,130	20,283,548	734,223	37,277,407	0	37,277,407
経常費用計	2,983,646	1,032,351	26,269,108	37,318,007	1,652,291	69,255,403	0	69,255,403
当期経常増減額	-994,563	970,081	2,629,395	2,959,015	519,179	6,083,107	0	6,083,107

## 3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法

## 4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。

当法人の正味財産は15,515,751円ですが、そのうち280,550円は、下記のように使途が特定されています。

したがって使途が制約されていない正味財産は15,235,201円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
株資生堂		280,550		280,550	
合計	0	280,550	0	280,550	

5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産 什器備品	393,645	376,162	376,162	393,645	393,644	1
無形固定資産						
投資その他の資産 敷金	460,000					460,000
合計	853,645	376,162	376,162	393,645	393,644	460,001

6. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
合計				

7. 役員及びその近親者との取引の内容

科目	計算書類に 計上された 金額	内、役員と の取引	内、近親者 及び支配法 人との取引
(活動計算書)			
活動計算書計			
(貸借対照表) 未払金	7,167,435	120,925	
貸借対照表計	7,167,435	120,925	

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法
- ・ その他の事業に係る資産の状況

## 事業報告用

## 令和4年度 財産目録

特定非営利活動法人アーツ・インシアティヴ・トキヨ

(単位：円)

科	目	金額	小計	合計
<b>【A】資産の部</b>				
<b>1 流動資産</b>				<b>31,034,945</b>
現金預金				
手元現金	656,406	27,842,064		
三義UFJ銀行 普通預金	8,597,212			
みずほ銀行 普通預金	18,485,284			
三井住友銀行 普通預金	103,162			
売掛金				
アーティストの東京滞在支援活動事業売掛金	1,180,000	1,863,283		
現代美術の展覧会ワーキングの実施事業売掛金	484,000			
現代美術の公開講座事業売掛金	46,746			
飲食提供、物品販売事業売掛金	152,537			
棚卸資産				
販売用	689,661	689,661		
前払費用				
[REDACTED]	480,876 159,061	639,937		
<b>流動資産合計</b> ···①				<b>31,034,945</b>
<b>2 固定資産</b>				
(1) 有形固定資産				<b>1</b>
什器備品			1	
パソコン	393,645			
減価償却累計額	-393,644			
(2) 無形固定資産				<b>0</b>
(3) 投資その他の資産				<b>460,000</b>
敷金				
朝倉不動産	460,000	460,000		
<b>固定資産合計</b> ···②				<b>460,001</b>
<b>【A】資産合計 ①+②</b>				<b>31,494,946</b>
<b>【B-1】負債の部</b>				
<b>1 流動負債</b>				
未払金				<b>15,979,195</b>
賞与	2,949,078	7,167,435		
武田編集事務所	946,000			
クレジットカード	826,746			
その他18件	2,445,611			
前受金				
三菱商事㈱	3,410,000	5,014,852		
Mondriaan Fonds	1,174,500			
The Swedish Arts Grants	430,352			
預り金				
源泉徴収税	518,390	1,054,308		
雇用保険料	21,620			
社会保険料	514,298			
未払法人税等				
未払法人税	565,300	913,600		
未払法人地方税	58,100			
未払法人事業税	180,700			
未払法人都民税	109,500			
未払消費税				
	1,829,000	1,829,000		
<b>流動負債合計</b> ···③				<b>15,979,195</b>
<b>2 固定負債</b>				
長期借入金				
退職給付引当金				
<b>固定負債合計</b> ···④				<b>0</b>
<b>【B-1】負債合計 ③+④</b>				<b>15,979,195</b>
<b>【B-2】正味財産合計 【A】-【B-1】</b>				<b>15,515,751</b>

## 令和4年度年間役員名簿

(前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれら  
の者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿)  
特定非営利活動法人アーツ・イニシアティヴ・トウキョウ

## 1 確認事項(法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。)

- ✓以下の役員には、欠格事由者が含まれません。(法第20条関係)
- ✓各役員について、親族の規定に違反していません。(法第21条関係)

## 2 役員一覧

役名 どちらかに ○	(フリガナ) 氏名	前事業年度内の 就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)
1 理事	シオミユウコ 塩見 有子	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
2 理事	スミトモフミヒコ 住友 文彦	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
3 理事	キリカワヨウコ 桐川 洋子 (宮原)	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
4 理事	ホリウチナオコ 堀内 奈穂子	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
5 理事	ニシヤマユウコ 西山 裕子	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
6 理事	ナンジョウフミオ 南條 史生	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
7 監事	ナカモリヤスフミ 中森 康文	令和4年5月1日 ～ 令和5年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
8 理事・監事	以上	年 月 日 ～ 年 月 日	年 月 日 ～ 年 月 日

**社員名簿**(社員のうち10人以上の者の名簿)

特定非営利活動法人アーツ・イニシアティヴ・トウキョウ

	氏 名	
1	塩見 有子	
2	ロジャー・クリストファー・マクドナルド	
3	住友 文彦	
4	宮原(桐川)洋子	
5	西山 裕子	
6	南條 史生	
7	中森 康文	
8	堀内 奈穂子	
9	金子 修	
10	肥田 曜子	
井	以上	